



第90回

三宅島の子どもたちにもバレーを

※2025年3月の毎日新聞ニュースサイトの記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

バレーボールVリーグ男子・東京グレートベアーズ（GB）の2人のコーチが1月、東京都の三宅島に向かい、練習会を開いた。

舞台は、島に一つしかない高校の体育館だ。

「おはようございます！」

コーチ2人が大声とともに扉を開けると、固い表情で背筋を伸ばした子どもたちが「おはようございます」と応えた。「あら？ なんかないさつが小さいなあ」と笑うコーチたち。練習会はこうして始まった。

東京GBは競技普及活動の一つとして、子どもたちを対象としたバレースクールを行っている。

三宅島での教室が開かれたのは、2024年11月、スクールに参加した小学生姉妹の存在がきっかけだった。

スクールの終了後、見学した姉妹の母から「島にいる子たちにも、こういう機会をぜひ作ってあげたい」との由来があった。チームはすぐさま実施に向けて動いた。

派遣されたのが、普段はスクールのコーチなどを担う竹内香奈子さんと平田亮介さんだ。

竹内さんは9人制バレーの群馬銀行で10年間プレーした。平田さんは中央大時代に、現在は男子日本代表主将を務める石川裕希選手（ペルージャ）の同期。22〜23年シーズン限りで現役引退した東京

GBの元選手でもある。経験豊富な2人が抜てきされた。

1月23日午後10時半。2人は竹芝棧橋からフェリーに乗り込み、翌朝三宅島に到着。宿舎で数時間休んだ後、1時間ほど海岸や溶岩、神社などを見て回り、24日午前11時からの練習会に向かった。

都立三宅高の体育館で行われた練習では、主に竹内さんが未経験者を指導し、平田さんが経験者を担当した。

竹内さんは「今日はコーチに1人1回、質問すること」と参加者に目標を提示をしてスタート。パスの基礎動作を繰り返し見せつつも、コツをすぐに言葉で教えることはしなかった。「どこが良くないと思う?」と問いかけ、子どもたちを考える時間を与えた。「バレーはチームプレーなので、チームメイトとコミュニケーションを取れるようになってほしい」と狙いを明かす。

一方で平田さんは、オーバーパスが苦手な小学生に「アンダーパスを究めればいい」とアドバイスした。得意分野を伸ばしてついた自信が、その後の人生の支えになると感じてきたからだ。

一方で、練習の終番には、自ら7割ほどの力を込めたジャンプサーブを披露した。「もう1本」と目をキラキラさせる参加者の姿が印象的だったという。右のふくらはぎをつって終了となったが、「(トップリーグの)選手のサーブを見る機会もなかなかないと思うので、経験してもらいたかった。喜んでもらえて良かった」と振り返る。

「子どもたちがチャレンジして、どんどん変わっていくのが分かってうれしかった」と竹内さん。2時間の練習の後は、練習前の緊張した姿がうそのように思えたという。

三宅島での練習会には、24、25の両日で小学生から高校生までの

87人が参加した。2日間の経験を踏まえ、コーチ2人は今後についてこう語った。

竹内さん「東京都の全域の子どもたちに、バレーの楽しさを知ってほしい」

平田さん「僕も同じ。大島や八丈島や小笠原（諸島）とかいろいろあるじゃないですか。なかなかこっち（本土）に来れない人にも知ってもらって、あれこれ楽しんでもらえたらいいなって思います」

ちなみに、竹内さんには一つ、心残りがあるという。東京に戻る前にクジラが見られなかったことだ。

そう言って竹内さんが笑うと、平田さんが粹な突っ込みを入れた。「また行こうってことですね」